

北海道大学がモンゴルの人獣共通感染症の解明に挑む 共に「知」を創造する科学技術協力～2019年度の採択結果の発表

途上国と日本の研究機関が共同研究を行うことで、地球規模課題に対応する新しい技術や知識を創り出していく科学技術協力(注)。2019年度は12件の事業の採択が決定され、北海道地域では、北海道大学の事業が新たに採択されました。

北海道大学とモンゴルの国立感染症センターによる共同研究では、モンゴルで流行する人獣共通細菌感染症である結核と鼻疽(びそ)に焦点をあて、日本とモンゴルの獣医学および医学研究者が協働し、疫学調査、迅速診断法の開発を行います。得られた技術によって、モンゴルを始め他国においても結核、鼻疽に罹患する動物の特定と対策が可能となり、家畜衛生、公衆衛生の向上が期待されます。

大学の先生方へのご取材も調整可能です。ぜひ取材をご検討ください。

日本側研究機関	相手国研究機関	事業名	SDGs 項目
北海道大学	モンゴル 国立感染症センター	モンゴル国における結核と鼻疽の制圧 (感染症領域)	 3 すべての人に健康と福祉を

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 国際科学技術技術室 (担当:岸本茜)
 TEL 03-5226-8114, e-mail:Kishimoto.Akane@jica.go.jp

<地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)>とは

日本と開発途上国の大学・研究機関等が連携し、新たな技術の開発・応用や新しい科学的知見獲得のための共同研究を実施するとともに、開発途上国の大学・研究機関等の研究水準の向上と総合的な対処能力の強化を行うプログラム。JICA、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の連携により実施しています。(<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/summary/index.html>)